

(別添2)

事業評価の結果 (内容評価項目)

福祉サービス種別 保育所  
事業所名 佐久市立中込第二保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	○佐久市の「子ども・子育て支援計画」にもとづいて、子どもの発達過程と心身の発達や家庭及び地域の実情に応じて、全職員の参画により、保育課程を編成する仕組みがあることを、資料や職員インタビューで確認しました。 ○保育課程は、保育所指針に基づき、児童憲章や児童の権利及び児童福祉法の理念、佐久市の保育理念、基本方針を踏まえた編成になっています。 ○指導計画は、保育課程に基づいて作成され、振り返りや評価が適切に実施されていることを記録等で確認できました。
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>□ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	○各保育室は、広々しており、採光により明るく換気や室温も適切な状態が保たれています。また、設備・備品も整理整頓が行き届いていて、園児が安心して、過ごせる保育環境になっています。  ○トイレは、広々としていて、全体的にカラフルな色あいでも明るく、掃除も行き届いた清潔感のあるトイレ設備環境でしたが、タイル貼りの冷たさが感じられました。夜はヒーターをつけて管理するなど、凍結対策はとられていますが、保護者アンケートでも老朽化した建物、設備への懸念の声も多く上がっていました。特にエアコン設置希望の声が多くありました。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>■ 18 せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>○一人ひとりの園児を理解受容し、園児一人ひとりの状態に応じた保育が実践されていることを、指導計画や職員インタビューで確認しました。</p> <p>○昼食は、当番の園児のあいさつで始まり、くつろいだ様子で会話を楽しみながら食べていました。お替わりも自由に出て来て何度も替わりをしている園児には、食事が偏らないように柔らかな声掛けで、野菜のメニューへの誘導を行っていました。</p> <p>○保育士はせかすような言葉ではなく、励ましや援助、配慮の言葉かけをして、一人ひとりの園児の状態に応じた適切な対応が見られました。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>○園児の基本的な生活習慣の援助支援は、保育課程、指導計画に基づいて、適切に実施されています。</p> <p>○園児個々の発達状況により、園児が自ら取り組もうとする気持ちを大事にして、保育士が支援する仕組みがあります。</p> <p>○園庭から戻った子どもたちは、自主的に手洗いやトイレに行き、基本的な生活習慣を団体生活の中で身につけていることが伺えました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○山保育園として、様々な戸外行事や地域交流行事が計画されていて、園児たちは、畑で野菜やサツマイモの収穫体験をしたり、焼き芋を楽しんでいました。</p> <p>○建物正面の園庭だけでなく、裏にある空地も保育園で借りて、各組ごとで分かれて身体を動かしていました。</p> <p>○近くを通っている鉄道を利用して、近隣の保育園へ交流に出かけたり、周辺にある川や、公園の原っぱへ遊びに出かけたりして、積極的に戸外に出かけていました。</p> <p>○電車利用では車内の過ごし方、散歩中には社会のルールを学び、また園周辺の施設を大いに利用するなど、地域へ出る機会も多く設けていました。</p> <p>○保護者アンケートで戸外に出る機会が多いと、ほぼ全員の保護者が答えていました。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子どもの表情を大切に、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○未満児保育の部屋は、全体が畳の和室になっており、広々とした空間になっていました。夏の猛暑日に配慮して、未満児の部屋だけには、エアコンが設置され、過ごしやすい環境を整えていました。</p> <p>○乳母車に乗せて園庭を散策し、日の当たる暖かい場所で寛ぎ、元気に飛び回る園児からも声をかけてもらっている様子が伺えました。</p> <p>○乳児保育は、養護と教育を一体的に展開する内容の指導計画に基づいて、適切に行われています。定期的な未満児研修会には、担当職員が必ず参加して、保育方法を学び、伝達研修で職員との共有を図っていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○3歳未満児の保育は、健康や基本的な生活習慣、自我の育ち、安全な環境等を内容にした保育課程・指導計画に基づいて、適切に実施されていることを、個別指導計画や記録等で確認しました。</p> <p>○特に個性の強い園児に対しても、保育士は集団から離れないように仲間関係の仲立ちをして、工夫された対応と見守りを行っていました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○訪問時に年長児は、クリスマス会の劇の練習の最中でしたが、保育士の準備を静かに並んで待っている様子が伺え、今までの指導成果が感じられました。</p> <p>○園の裏には秘密基地を作ったり、この地域特有の粘土質を生かした泥で「つるじか団子」を作ったりして、遊びの中から子どもたちの探索活動や創作活動を行っていました。</p> <p>○3歳以上児の保育は、基本的な生活習慣の習得や、自立心、相手を思いやる、就学準備等を内容とした指導計画に基づいて適切に実施していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>■ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○定期的に市の保健師や医療機関、専門機関、保護者と話し合う場を設け、障がい児の情報を共有する仕組みがありました。</p> <p>○保育士は、毎月行なっている発達支援研修会で専門知識を学び、今後の保育に役立るように努めていました。</p> <p>○現在は障がいを持った園児はいませんが、個性が強い園児について、職員全体で周知を図り、理解ある対応を実施していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○長時間にわたる保育は、指導計画に基づいて、園児がくつろいで安心して心地よく過ごせるように広めの保育室で行なっていました。</p> <p>○保育士間の引継ぎ等も確実に行われ、保護者の都合等で、急に保育時間が予定より長くなった場合でも、随時対応していました。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○年長児の保育については、保育課程・指導計画に基づいて、小学校との連携や就学に向けての取り組みが、具体的な計画として記載されていました。</p> <p>○計画には、就学先の小学校の訪問や交流が図られ、教員と保育士の情報共有の機会も設けられていました。</p> <p>○園長と主任保育士は、所定様式により、就学児個々の育ちや発達の状況、特性等を記録した保育要録を就学先の小学校に提供していました。</p> <p>○就学前の保護者とは、全体懇談会、個別面談の機会を設ける等適切に対応していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもに関する方針や取組を伝えている。</li> <li>■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○園児の健康管理については、保険計画により、組織として、全職員が取り組む仕組みがあります。</p> <p>○保健マニュアルに基づいて、登園後すぐに園児一人ひとりの表情や行動の様子を記録し、異変があった場合はマニュアルに基づいて、保護者等への連絡を行う仕組みがあります。</p> <p>○「入園のしおり」にも、保険計画の基本的な情報や乳幼児突然死症候群についての情報も記載し、保護者等への説明がされています。</p> <p>○感染症対策についても、「入園のしおり」で対象18種の感染症と症状、潜伏期間、予防対応方法、登園可能な目安等がわかりやすく記載され、説明されていました。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○保健計画により、毎月の身長、体重測定の実施し、内科・歯科・眼科検診は毎年実施されています。登園後は毎日視診を行ない、少しでも変化がある場合は園長に伝えて、相談しながら保護者に連絡するなど慎重な対応に努めていました。</p>
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○園児のアレルギー疾患や慢性疾患等の対応については、厚労省の「保育所アレルギー対応ガイドライン」に基づいて、当園のアレルギー対応マニュアルが作成されていました。</p> <p>○「入園のしおり」にも、アレルギー対応のきまりが記載され、職員、保護者に定期的に説明をし、周知するように努めていました。</p> <p>○市の子育て支援課の栄養士が、市内の保育園に統一した献立を作っています。毎月、献立会が開かれ、特に食物アレルギーで食品除去が必要な場合は、医師からの生活管理指導表を提出する等で対応していました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	<p>○「食育とおいしく楽しく食べる」が保育計画に記載され、年齢に応じた食事を楽しむ様々な工夫されていました。</p> <p>○調理員は、園児が楽しめる調理に心掛けている様子が伺えました。</p>
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子ども食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○入園時にアレルギー等の情報を受けて、その後家庭からの情報で確認しています。朝会で、その都度別メニューの伝達を受け、保育士全員で周知して対応していました。</p> <p>○食育の目標計画により、献立メニューの検討や評価が調理員、保育士で話し合わせられ、調理方法や盛り付け等の工夫がされていました。</p> <p>○調理室や各クラスの衛生管理は、マニュアルに基づいて、適切に行われていました。</p>



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>□ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○保育方針や保育課程、子どもの発達状況等は、毎日の送迎時や連絡帳、保護者懇談会等で保護者に伝える仕組みがありました。</p> <p>○保護者アンケートで、連絡帳への記載で子どもの様子をもっと知りたい、連絡帳は何の為に必要なのかなど疑問の声がありました。連絡帳の活用方法の見直しをお願いします。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>□ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>□ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○保護者家族支援は、主任保育士や園長が中心なり、相談内容によっては、担当保育士が対応する等、全職員が対応する仕組みがありました。</p> <p>○年に1度の家庭訪問で、家庭環境に心配のある家庭については、職員会議で取り上げ、その内容によって市の子育て支援課や児童相談所に関わってもらうなどの協力体制を取っていました。</p> <p>○保護者アンケート結果で、問24、問25の要望や意見の聞き取り、対応についての満足度は低く、「的確に行われているか」、「改善されているか」の問いかけに「はい」の回答は調査回答者の半数以下になっていました。今後の見直しをお願いします。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>□ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>□ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○職員は、虐待等権利侵害の外部研修に計画的に参加し、伝達研修で共有周知を図っています。</p> <p>○虐待権利擁護の早期発見、早期対応ができる環境や仕組みはあります。マニュアルのさらなる整備を期待します。</p>
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	<p>○保育士は、保育課程や指導計画の振り返りや自己評価を行う仕組みがあり、保育実践や専門性向上への取り組みが記録等で伺うことができました。</p> <p>○主任保育士と園長が自己評価に対してアドバイスしたり、指導する等、保育の専門性を高めようと努力してしている様子が伺えました。</p> <p>○目標管理制度の自己評価も年2回行われ、適切に実施されています。</p>